

極楽寺だより



2019(平成31)年4月号

発行所：極楽寺（浄土真宗本願寺派） ☎759-3803 山口県長門市三隅下野波瀬 3633 ☎0837-43-0625

春の永代経法座のご案内

慈しみの光あふれる春となりました。

生命の息吹を感じる時、お浄土の人となられた方々

が懐かしくしのばれます。

如来さまのおすくいのご恩、お育てのご恩を味わい、

仏祖のご恩を感謝して、春の永代経法要を次のとおり

おつとめます。お誘いあわせ、お参り下さい。

四月二十四日(水)

昼一時半 夜七時半

四月二十五日(木)

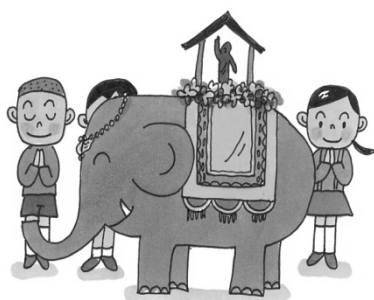
昼一時半

講師 福岡 甘木市 信覚寺住職

渡邊如心師

花まつり

※ 甘茶お持ち帰りをご希望の方は、どうぞお申し出下さい。



四月八日は、お釈迦さまのご誕生を祝う花まつり。花御堂を飾り、お釈迦さまの誕生時のお姿に甘茶をかけてお祝いします。花御堂は、生誕の地「ルンビニーの花園」をあらわし、甘茶は「ご誕生の際に、甘露の雨が降った」という言い伝えによるものです。

極楽寺では、春の法要の二日間、本堂に花御堂を飾ります。

ご自由に甘茶をかけ、お飲み下さい。



極楽身だよ！
エッセイ

声に出して、お念仏称えましょう

キャンペーン 第七弾

「南無阿弥陀仏」の意



今回は、『南無阿弥陀仏』の言葉の意味について、ご説明します。わかりにくい表現があるかもしれません。せんが、どうかしばらくの間お付き合いください。

『南無阿弥陀仏』とは、古いインドの言葉・サンスクリット語の発音を、漢字に当てはめたもの(音写)です。アメリカを「亜米利加」、フランスを「仏蘭西」と漢字で表すようなものだと思ってください(ちなみに米国・仏国という表記は、この音写から来ています)。ですから、漢字そのものには深い意味はありませんが、意味で考えると『南無』と『阿弥陀仏』とに分けられます。

『南無』とは「ナマス(namas)」という言葉の音写で、元々は「折り曲げる」という意味です。腰を折り曲げ、相手にひざまずいている様子から、「敬い礼をする」「帰依する」「よりどころとする」

と表すようになりました。ちなみにインドでは「ナマステー」と挨拶しますが、「テー(ॐ)」とは「あなたに」ということですから、「あなたに敬礼します」「私はあなたを尊びます」という意味になります。なんて素敵な挨拶なのでしょう！

『阿弥陀仏』の『阿(ॐ)』とは、否定や反対を表します。例えば、ラッキーに対してアンラッキー、ストップに対してノンストップと言うように、「頭に「アン」や「ノン」がつくと否定や反対の意味になる。それと同じです。

『弥陀(mita)』とは「計量された」という意味です。計測器・量りを「メーター」と言いますが、この語源が実は、この『弥陀(mita)』なのだという説もあります。

ということで、『阿弥陀仏』とは「無量(量り知れない)の仏様」と訳されます。では、何が量れないのでしょうか。実は経典がインドから中国に伝わる途中、『阿弥陀』に続く二つの言葉が省

略りやくされました。それは「光ひかり(abha)」そして「いのち(āyus)」です。

「量りょうることができない光ひかりといのちのはたらきを持つ仏様」、それが

『阿弥陀仏』という仏様なのです。ですから、阿弥陀様のことを「無む量光りょうこうぶつ仏」「無量寿むりょうじゆぶつ仏」とも言い表します。

ちなみに、無量の光とは、すべての空間くうかんを照らすはたらき(どこでも)を表します。すべての者を教え導き、

救うはたらきです。

無量のいのちとは、すべての時間じかんを超えるはたらき(いつでも)を表

します。苦くるしみ悩む人がいるかぎり、

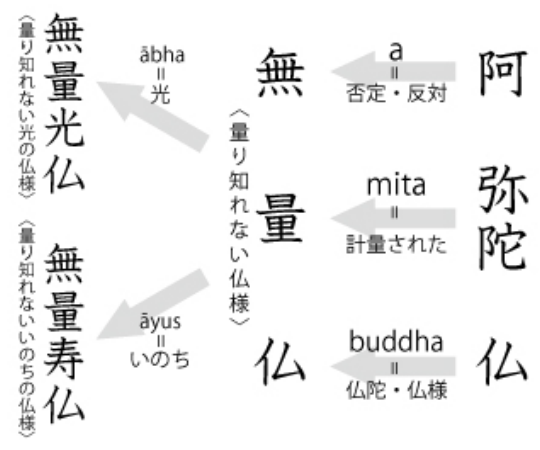
その人々と共に生き、必ず救うはたらきです。

いつでも、どこでも、私たちを救うためにはたらき続けてくださる仏様が『阿弥陀仏』だということです。

ややこしい説明で申し訳もうありませんが、もう少しお付き合いください。

さい。これらの意味を踏ふまえた上で、親鸞しんらん聖人は、『南無阿弥陀仏』

に二つの意味を味わっておられます。↘



一つは意味の通り、「私は、量はかり知

れない光ひかりといのちの仏さま(阿弥陀仏)

を尊とうとびます(南無)」というこちら側

の受け止めです。そしてもう一つは、

「量はかり知れない光ひかりといのちの仏である

私(阿弥陀仏)に帰依きえしなさい(南無)」

という阿弥陀様からの呼び声という意味です。

つまり、『南無阿弥陀仏』とお念仏ねんぶつを称となえると

いうことは、阿弥陀様の呼び声を聞き、阿弥陀様の

はたらきを受け止めていくことであり、阿弥陀様のはたらきをより

どころにして人生を歩むということなのです。

(以上で説明は終了です。ここまでお疲れ様でした)

さて、私がPTA会長をしていた時に参加した、研修会けんしゅうかいでのこと
です。講師こうしの先生は、二十年間の小学校の教師生活を経て、現在は
教育サポーターをしておられる方でした。

小学校では、毎年のように起こるトラブルがあります。例えば、

ウンコのおもらしは必ず起おこります。授業とちゅうぎょうの途中に「先生、何かク

サイ」という声こゑがあがる。みんなの顔色かおいろを見ると、誰がしたの
↙



かはすぐにわかります。そんな時に、どうすればその子を傷つけずに対応できるかが、先生の腕の見せ所。しかし、そんな対応は大学では教えてもらえません。



あくまでも、その場で臨機応変にしなくて

はなりません。が、「僕の場合は「君、ちょっと顔が悪いな。保健室

に行こうね」と、さり気なく連れ出したよ」といった経験談を聞いて

いるだけでもかなり違います。そこで若い先生が集まり、それぞれの

経験を通してながら、みんなで作って、引き出しを作っていく。そ

んな学びの場を主催していただけるのです。その方から、とても興味

深い話を聞きました。

体育館で、「みんな集まれ！」と言うと、パッと集まる子もいれば、

グズグズ動く子もいます。では、いつも一番遅い子を、一番早く集

まれるようにするにはどうしたらいいのでしょうか。

答えは、とてもシンプルなものでした。そんな時は、自分が一番

遅い子の所に行って、「みんな集まれ！」と言ってやったらいい。す

ると、その子が一番になる。そして頭をなでてやると、その子も「あ

あ、先生。僕のこと気にしてくれとるんやなあ」と思っ、集まる

のもだんだん早くなるのだそうです。

まさに、逆転の発想です。来ないのであれば、いや来れないので

あれば、こちらから行けばいい。それは、来る子よりも、来ない子

をエコヒイキするわけではありません。一番遅い子を心配するという

事は、みんなを心配するということでもあるのです。誰もが、いつ

も元気ではありません。ケガすることもあれば、落ち込むこともあ

ります。そんな時に、一番遅い子を気にしてくれる先生であれば安

心です。いつでも、どこでも、先生が見ていてくれるのですから。

私は、この話を聞きながら、阿

弥陀様のはたらきを思いました。

いつでも、どこでも、私のそばに

いてくださる。寄り添い、心配し、

共に歩んでくださる。優秀な者だけ

を選び取るのではない。愚かな者も、弱い者も、何より苦しみ悩む

者も、等しく携え取る仏様。それが阿弥陀様のはたらきなのです。

竹中智秀という先生は、このはたらきを「選ばず」「嫌わず」「見捨

てず」という言葉で教えてくださいました。

ところが、私たちの世の中を覆うのは「選

び」「嫌い」「見捨

「選ばず」
「嫌わず」
「見捨てず」



る」という考え方です。役に立つものと立たないものを選び、儲か
るものと儲からないものを選び、好きか嫌いかを選ぶ。自分の思い
にかな適うものを選び、かな適わないものは切り捨て、見捨てる。そして、
自分自身が役に立たなくなったら、歳をとったら、病気になるか
ら、「こんな自分はダメだ」と自分を嫌い、見捨ててはいないでし
うか。

そんな私たちに、「あなたの尊とうとさを見失うな」「みんなに裏切うらぎら
れ、独ひとりぼっちになったとしても、決して見捨みすてない世界がある」
と呼びかけられる声がある。それが『南無阿弥陀仏』のお念仏なの
です。その呼び声にこた応え、阿弥陀様と共に人生を歩む。自分の思い
や社会を覆おおう考えではなく、阿弥陀様の願いをよりどころに生き
る。それが『南無阿弥陀仏』のお念仏を称となえるということなのです。

私たちの先輩方は、「誰も認みとめてくれなくても、阿弥陀様が一いっしょ緒に
いてくださる」「わかっていてくださる」「受け止めてくださる」と、
お念仏を称えながら、阿弥陀様と共に人生を歩あゆまれました。もちろ
んそれは、自分の頑迷がんめいさを正せい当とう化するために、阿弥陀様を利用りようする
ことではありません。阿弥陀様に導みちびかれ、育そだてられ、生なまと死しを超こえ
た真実を与えられる歩みです。↘

とくど しんぼち 得度を終えた新発意が、 とくどひろう 彼岸会法要で得度披露しました

そんな歴史がお念仏の響ひびきに込めら
れて、今私のところところにまで届とどけられて
いるのです。大切に受け止めなくては
なりません。 ■

池信融いけのぶ也です。
よろしく願ねがいします。

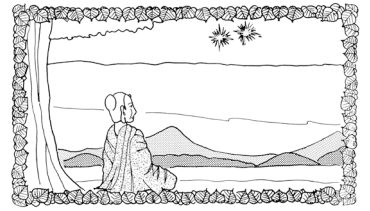


現在、京都の龍谷大学で、
真宗を学まなんでいます。

浄土真宗では、得度を受けた寺院の子弟しんぼちを新発意と呼びます。
元々は、「新たに悟りを求める心を起こすこと」を表わしましたが
が、そこから「僧になったばかりの者」「仏道に志して日数の少
ない者」を言うようになりました。

私も、皆様にお育ていただきました。どうぞ新発意も、
厳しく、温かくお育てください。よろしく願ねがいします。





極楽寺揭示伝道 けいじでんどう

よき師が

極楽寺揭示伝道

少ないのではない

師を見出す

心がとぼしいのである



4月の言葉

先日テレビで、フリーアナウンサーの古館伊知郎さんが、「月を

見て、美しいと思うあなたの心が美しい」という言葉を紹介して

おられました。月の美しさを評価するのは、こちらの側だと思っ

ていた私にとって、目から鱗が落ちたような気がしたのです。

例えば絵を見て感動する人は、その絵の素晴らしさを感じ、見

抜く目があるということでしょう。ところが私などは「この絵っ

て、何千万円もするの？」と、金額でしか絵を見ることができな

い、貧しい心と目しかありません。絵を見て美

しいと感じる、そんな心こそが美しい。金額で

しか判断できない、私の心がみすぼらしい。私

の生きる態度が問われているようで、とても恥

ずかしい思いがしました。

プロ野球ソフトバンクホークスに、今年高

卒三年目の古谷優人くんという選手がいます。最速 154 キロを投げ

る、将来有望な左ピッチャーです。彼がドラフト2位で指名され、

ホークスと契約した時の記事は、とても印象的なものでした。その

タイトルが、「妹に恩返ししたい」だったからです。

「お姉さんに恩返ししたい」というのな

ら、何となく想像がつかます。お姉さん

が大学進学を諦めて、弟のために苦しい

家計を助けてくれたというストーリーを

思い浮かべることができるとしよう。し

かし、そうではありません。「妹に恩返

ししたい」というのです。高校生の彼が、

妹に恩返しをしたいとはどういうことなのだろうと、不思議に思

いました。

彼の妹は、小児脳梗塞のため障害が残ってしまいました。古谷

くんは最初の頃、どう接すればいいのかと戸惑ったそうです。彼

は「小中学生のころは、障害者の人を見て、どっちかという馬

鹿にする人間だった」からです。しかし妹と接していく中で、自

分の何かが変わっていきました。「困っている人を助けたいと思う

ようになった。妹という存在があったから、人間的に成長で



古谷優人くん

きた。投げるときは一番に福岡へ呼びたい」。お父さんも「そういうことを言ってくれるようになったことがうれしい」と目を細めたというのです。障害を持つ妹を、最初は恥ずかしく思っていた自分が、彼女と接していく中で成長できた。彼女のお陰だ。妹に恩返しをしたい。こう思えるって、凄くないですか。彼はとても素敵です。

小説家の吉川英治さんは、色紙を依頼されると「我以外者皆我師也(私以外のすべての人はみな、私を育ててくださる師である)」

という言葉を書かれていたそうです。これは、吉川さんの周りに、よき師と仰ぐことができる素晴らしい人が多かったということではありません。どんな人からも何かを学びとつていこうとされる、吉川さんの生きる態度の素晴らしさが、表れている言葉なのです。同様に、妹が自分を育ててくれた恩人だと思える古谷くんも、また素晴らしいではありませんか。そう受け止めることができる、古谷君の心が美しいのでしよう。

どんなに素晴らしい人が側にいても、素晴らしさに気づく心かとほしければ、出遇いは成り立ちません。逆に、どんな人からでも学ぼうとする態度があれば、すべての人を師と仰ぐ出遇いが開かれる。大切なのは、こちら側の学ぶ姿勢や生きる態度なのだ

と教えられるのです。

お釈迦様の弟子に、阿難尊者という方がおられます。お釈迦様に付き従い、細々とした世話に心を尽くし、説法が始まれば常に座の先頭で一言も聞き漏らさない。しかも、それを全部覚えているといふ「多聞第一」と称される方でした。ところが熱心で記憶力が良いのにもかかわらず、仏弟子としては、あまり優秀ではなく、他のお弟子よりも悟りを得ることが遅かったと伝えられています。

その阿難尊者が、ある時お釈迦様に質問した場面が、『大無量寿経』の冒頭に描かれています。

「今日のお釈迦様は、体中が喜びに満ち溢れ、お顔が光り輝いておられますが、一体どうなさったのですか」と阿難が問うと、

「阿難よ。それは誰かに聞けと言われて問うたのか。それとも自分でそう感じたのか」と、お釈迦様は逆に問い返されます。

「いえ、自分が見たままのこと
を尋ねているだけなのですが」



と阿難が答えると、お釈迦様は、このように言われました。

「まことに結構である。今問うたところは、非常に深い意味がある。お前の問いは一切の衆生を救う、そういう意味を持っている問いである」と。

阿難は、「どれだけ聞き、記憶したか」という知識を得ることに
おいては、弟子の中で一番でした。しかしそれは、仏弟子として
はあまり意味あることではありませんでした。なぜなら阿難は、
お釈迦様を偉い人「人間釈尊」として見ていただけで、仏様とし
ての「仏陀釈尊」と出遇っていたわけではなかったからです。

いつも「仏陀釈尊」は、阿難尊者に呼びかけておられました。
「この尊い法に、気づいてくれよ。この心に目覚めてくれよ」
と。しかし受け取る側の阿難は、言葉だけを懸命に聴き、知識と
しては覚えていました。もしかすると、得た知識の量を誇り、慢
心していたのかもしれませんが。

ところが、阿難は釈尊の様子がいつもと違うと感じたのです。
それは、お釈迦様が違ったのではありません。いつもと違ったの
は、阿難の方だったのです。これまで気づけなかった、お釈迦様
の本当の呼びかけに、ようやく気づくことができた。しかもその
気づきは、阿難のこれまでの努力が積み重なり、ようやく開か

れたものではありません。ただ、気づいただけだったのです。い
つも呼びかけられていた教えに、照らされていた光に、すでに届
けられていた心に、ただ気づいただけだった。仏様との出遇い
は、このような形で実現するのだと、『大無量寿経』には示されて
いるのです。

いつも顔をつき合わせていても、出遇っているとは限りませ
ん。お釈迦様と一緒にいても、それが仏様と出遇うということに
はならないのです。教えは、すべての衆生（生きとし生けるも
の）に開かれていて、すべての衆生を照らしている。そのことに
気づけないのは、こちら側の頑なさであり、受け止めようとする
姿勢なのでしよう。阿難尊者の仏弟子としての本当の歩みは、こ
こから始まったのです。

チベットには「師は、弟子にその準備が整った時にあらわれ
る」という格言があります。まず問われるべきは私の貧しい心と
学ぶ姿勢なのであり、それが整えば、自然と師と仰ぐべき人の存
在に、気づくことができるのだと。どうや
ら、私の生きる態度を見直す必要があります
うです。 ■



人の道みんな

知ってる

忘れてる

極楽寺掲示伝道



5月の言葉

「そこに、愛はあるんか。本当の愛は、あるんか？」

以前、女優の大地真央さんが、こう問いかけるCMが話題になり

ました。強烈なインパクトと同時に、鋭く「本質」を問うものと

して、とても印象に残りました。私たちの言動は、ついつい形式的

になりがちです。形はとても大切なものですが、形ばかりに捉われ

ると、中身や心が見失われてしまいます。中身や心の確認をするた

めにも、時には大地さんに「そこに、愛はあ

るんか？」と叱ってもらいたいものだと、思

ったのです。

さて、いくつかの企業がインターネット

の調査で、子育て中のお母さんへ「将来、ど

んな子に育って欲しいですか？」と質問

しています。結果を見ると、第一位はどれも「優しく、思いやりのある子に育って欲しい」という答えでした。

では、「優しさ」「思いやり」とは、具体的にどういうことなの

でしょうか。優しくしたつもりが、単なる甘やかしになることがあ

ります。「あなたのためだから」と言いながら、実際は押しつけにな

っていることもありますし、行き過ぎると圧力になることさえあ

ります。いくら言葉があっても、その中身が問われなければ、その

言葉は死んでしまうのです。

ある教育学者が講演で、「『ふれあ

い』こそが親子の基本であるから、い

くら忙しくても、子どもとふれあうこ

との喜びを大切にしよう」と呼びかけ

ました。すると、会場から「では、一日

に何時間以上ふれあえば、『ふれあい』と言えるのでしょうか」と

いう質問が出て、その先生は思わずのけぞったといわれます。『ふ

れあい』は、時間的なノルマで解決するものではありません。短い

時間でも深くふれあうことはできるし、逆に長い時間一緒にいて

もすれ違ふことはあります。それを数字でしか考えられないとは

…。ここでは『ふれあい』という言葉は、もうすでに死んでい



愛がいちばん。

ます。教育学者の先生が、のけぞる気持ちも、よくわかります。

「優しさ」「思いやり」も同様です。数字で表すこともできなければ、達成すべきノルマありません。その場によって、人によって、対応も変わる。つまり、簡単には答えが出ないもの。いや一生かけても答えが出ないものかもしれないのです。だからこそ、常に中身や本質を問い続けなくてはなりません。「そこに、愛はあるんか。本当の愛は、あるんか？」と。「人の道」とは、人間の営みとは、その繰り返しではないでしょうか。そこにこそ、言葉は生き生きとした心を取り戻すのです。

ジョージ・オーウェルという作家の『1984年』という小説があります。1949年に刊行されたものですが、現在でも読み継がれている、いや今こそ読まなければならないと注目されている名著です。

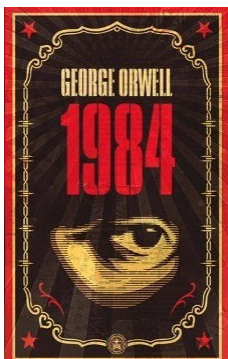
舞台は、独裁者「ビッグ・ブラザー」

が支配する全体主義国家「オセアニア」。

ここでは、国民の言動は厳しい監視の

もとに置かれ、国に反抗的だと判断されれば「思考警察」に逮捕さ

れてしまいます。▼

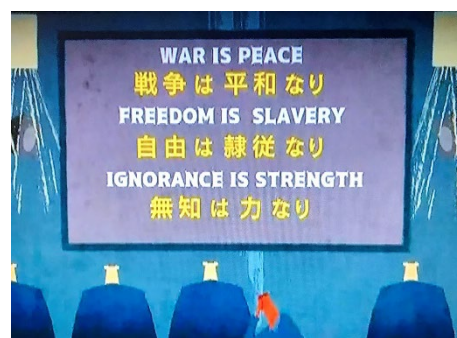


人間は本来、疑問を持ち、複雑なことを考え、悩み苦しみ、時に

は中身や本質を見つめ直したりもします。だからこそ、人生は豊かになるのでしょうか。しかしこの国では、そんなことは考えなくていい、国家の思い通りの人間になるようにと、様々な取り組みが行われます。

例えば、戦争を統括する省庁を「平和省」と名づけます。情報を操作・改ざんし、国家が言うことがいつも正しい状態を作り出す省庁を「真理省」。国民を管理し、国家に反抗的な者を逮捕、拷問、洗脳し、最後には処刑する省庁は「愛情省」です。平和のために戦争し、国家の言うことだけが真理であり、愛情があるがゆえに国民を処罰する。美しい言葉を使いながらも中身を変えていき、いつの間にか思考をも管理する。そして段階的に言葉を減らし、言葉の意味を減らし、簡略化していきます。

実は、人間にとって言葉とは、そしてその意味とは、生き方さえも左右する重要なものなのです。私たちは言葉の中に生まれ、言葉によって育てられ、考え、言葉によってものを見ています。ですから、言葉が少なくなり、意味が簡略化されると、深く考えるこ



とも、豊かに感じることもできなくなります。つまり、言葉が死ぬと、人間の営みも死んでいくのです。それを利用して、何も考えず、何も感じない、国家の言いなりになる国民が作られていきます。

それは、人間にとって恐ろしいことだと思いきや、意外とそうでもないのです。本質を問い直すよりも、答えを与えてもらった方が実は楽なのではないでしょうか。間違いや愚かさと同じ合うよりも、都合の悪いことは忘れ、良いことだけを見て生きた方がいい。深く考えるのは、面倒くさい。人間には、そんな部分も確かにあります。しかし、その道を選ぶということは、人間らしさを失い、人間であることを放棄してしまうということでもあるのだと教えられるのです。

これは、小説の中だけの話ではありません。現実には、都合の良い事実だけを切りとったフェイクニュースと呼ばれる情報が飛び交っています。自虐史観という言葉で、歴史と真摯に向き合う姿勢が貶められています。歴史を振り返れば、小説『1984年』と同様のことは、いくらでも起こっている。だからこそ、今読まれなければならぬものとして、この小説が注目されるのです。時間の長さだけで「ふれあい」を理解しようとするのも、経済や効率ばかりを優先し、本質を問い直すことを忘れた時代が作り出したものな

のでしょう。

ちなみに歴史と向き合うということなのですが…、そもそも完璧な人間はいませんし、誰もが必ず失敗をします。苦しみ悩みながら、そうせざるを得ないこともあります。何より私たちは、みんな時代的制約の中に生きていますから、その時、その場では見えないことがあるのです。つまり先人の失敗を、結果論だけで斬り捨てるのは、後出しジャンケンのようにとても失礼な行為です。そこに「愛」はありません。だからといって、都合のよい部分だけを切り取り、都合の悪い部分を無きものにするのは、先人の失敗を、そして人生までも、虚しいものにする行為です。

先人を思いやり、「愛」するとは、次の世代の私たちが、失敗を活かしていくことなのだ、私は思っています。

「優しさ」「思いやり」…。言葉では、みんな知っています。しかし、それが具体的にどういうことなのかは、簡単に答えが出るものではありません。常に、中身や本質を問い続けなくてはなりません。そこにしか、人間の営みはないのですから。それを簡略化





し、見失い、忘れることは、言葉を殺し、人間らしさを失うことになるのです。私は、問い続ける営みの尊さを、親鸞聖人の生き方から教えられました。聖人の一生は、まさに苦悩と問い直しの人生だったと言えるでしょう。常に「ここに、阿弥陀様の心はあるんか。本当の心はあるんか？」と。だからこそ、親鸞聖人の出遇であわれた世界は、深く、豊かなのです。なかなか深まりもせず、豊かにもなりません、ささやかでも、そんな営みを続けていこうとする。それこそが「人の道」だと思う、今日この頃です。■

※ 今回の文章では、大地真央さんの「そこに、愛はあるんか。本当の愛はあるんか？」という言葉を、キーワードにしました。しかし、言葉の本質というところで言うならば、本来仏教では、「愛」とは「執着する心」のことで、あまり良い意味では使いません。「愛より憂うれいが生じ、愛より恐れが生ず」（『法句経』）と言われていますし、「愛憎」というように、愛と憎しみは表裏一体。愛情が強ければ、憎しみもまた強いと考えます。ただ、このC Mでの「愛」とは、「本質」を表わしているのだと解釈し、採用していることをご理解ください。



住職からの
お願いです

夜の法座に、お参りください



□次男・宏哉が高校を卒業し、福岡教育大学に進学することになりました。高1の夏から四カ月の入院生活を余儀なくされ、先行きを不安に思っていました、ここまで来れたことに、本人も家族も喜びを感じています。また、多くの方々に心配していただきました。本当に有難うございました。□大好きな野球はできませんでした。病気が上手く認識されず、つらい言葉をかけられたこともあり。しかし友達に恵まれ、色んな人に助けられ、心に残る高校生活になったようです。□人間は、つらい状況でかけられた優しい言葉を忘れません。同時に、つらい状況でかけられた酷い言葉も、忘れることはできません。それを肌で感じる経験でした。□ならば、せめてつらい状況にある人に対して配慮し、優しい言葉をかけることができる人間でありたい。そう思いますし、彼にもそう思っ欲しいと思います。□仏教は「人生は思い通りにならないものだ」と教えます。それは「その事実を受け止め、どう生きるのか」「そこから、何に気づいていくのか」という、大切な問いが突きつけられることでもあるのでしょうか。尊い経験として、活かしていかなばと思っています。(住)